

助け合い

小 三

この間、わたしは、コンビニエンスストアに行きました。店内に入るとおきやくさんが二人ぐらいいました。わたしは、大すきなアイスを買って外に出ると、車いすにのっているおじいさんがいました。車いすにのっているの、足がふじゆうなのだなと思いました。わたしは今まで見たことがある車いすの人は、お年よりで、車いすの後ろにのっている人がいました。けれども、そのおじいさんは、一人で車いすにのっていました。まわりを見ると、おしている人がだれもいません。「どう

してかな。」と思いました。その人が何をしているのか見ると、ごみをすてていました。足がふじゆうなので手をのぼしてごみをすてていました。わたしは、「なんだか大へんそうだし、かわいそうだなあ。」と思いました。そして、「車いすの人の高さにあったごみばかりがあればいいな。」と思いました。

わたしが車にもどろうとすると、「このふくろ、足もとに入れてくれる。」とその人に言われました。

わたしは、知らない人に声をかけられたこともなかったし、車いすにのつた人から声をかけられるなんてはじめてだったので、少しびっくりしました。そして、心ぞうがドキドキしました。「わたしがお手つだいするの。」と思い、

心細くなりました。けれど、わたしのまわりにはだれもいませんでした。きんちようしながらも、その人の所に行きました。ふくろを入れる場所は、車いすの下の部分でした。すわったままでは、そこは見えないので手がとどかないのです。「手のとどくところに入れるところがあればいいのにな。」とわたしは思いました。そして、「ここに入ればいいのかな。」とふあんな気持ちでしたが、言われた場所にふくろを入れました。

「ありがとうございます。」

とその人に言われました。わたしは、ほっとしました。そして、なんだかうれしくなりました。

「どういたしまして。」

と思わず言いました。いつもだったらはずかしくて言えない言葉も、なんだかしぜんに出てきました。そして、お母さんのいる車までスキップして帰りました。

お母さんに話したくて言おうとする、

「見ていたよ。えらかったね。とつてもいいことをしたね。」

とほめてくれました。わたしはますますよい気持ちになりました。お母さんにほめられて、また「こまっている人」や「手つだってほしい人」を助けたいと思いました。人を助けると、自分もこまっている人も、とてもよい気持ちになります。「自分にできることは助けて、自分ができないことは助けてもら

いたい。」と思いました。

これからも、いろいろな人と「助け合い」ができるとよいと思いました。